



うちのイチ押し!

令和
6
年度

ネットワーク・ラボ登録利用団体募集!!

大阪市内を中心に、生涯学習活動を進めている市民グループ、NPOやこれから活動を始めようとするグループに、会議や打ち合わせのできるブースを提供するネットワーク・ラボの利用グループを募集します。センターは皆さんの活動を積極的にサポートします。梅田にある大阪市立総合生涯学習センターといっしょに活動をひろげてみませんか?



期間 令和6年4月1日(月)～令和7年3月31日(月)

対象 市民グループ、NPOなど

申込 来館のみ 12/9(土)より受付開始。審査委員会で書類審査を実施のうえ、選定する。

締切 令和6年1月31日(水)必着

問合せ 6345-5004(総合生涯学習センター)

※料金の詳細は、総合生涯学習センター、市民学習センターなどで配布する募集要項やHPを参照。

個別相談会

令和6年1月16日(火)～令和6年1月22日(月)

10:00～17:00

総合生涯学習センターにて

(事前にお電話にてご予約ください)

大念佛寺本堂の建築—伝統様式と近代技術の融合—

大念佛寺は融通念佛宗の総本山で、平野区平野上町に広大な伽藍を構えます。境内には、本堂をはじめ、勇壮な外観の山門や、経蔵、南門(いずれも大阪市指定文化財)など多くの建築が建ち並んでいます。

そのうちの本堂は木造建築としては大阪府下最大の規模で、昭和初期の洗練された意匠が特徴的です。昭和13(1938)年に竣工しました。

堂内は天井が高く、柱の少ない広大な空間がひろがっていますが、これは中央の4本の柱を天井のさらに上部まで延ばして、小屋組みを支える梁を直接受ける“立ち登らせ柱”という強固な構造が用いられていることによります。

近代以降の新しい建築技術としては、巨大な屋根の小屋組みに、トラス構造という三角形を組み合わせたような構造が採用され、また基礎を連続したコンクリート製としてこれに柱を固定することにより、地震、台風などの横揺れの力に対抗できるようにしたなどがあげられます。屋根を葺くのに、従来の本瓦葺きにすると屋根の荷重が大きくなり、耐震構造としては不利になるため、銅板を本瓦葺きと同様の外観に整形した瓦型銅板葺きとして荷重を軽くするという珍しい手法が採用されています。

このように、大念佛寺本堂の建築は、従来のわが国の伝統工法と明治以降に導入された新しい西洋建築技術が融合して、大規模な建築を無理なく建てることができました。わが国の伝統建築において、昭和初期という時代の特徴を示す建築といえます。

現在、この本堂の大規模な修復工事がおこなわれています。この工事期間中に、大念佛寺の主催により、大念佛寺の文化財と今回の修復工事をテーマとした連続講演会が予定されています。詳しい内容や申し込み方法などは、大念佛寺にお問い合わせください。

(大阪市教育委員会事務局 文化財保護課)



大念佛寺本堂全景(平野区平野上町1-7-26)



おおさか

歴史
探訪

185

大阪の史跡や歴史資料を毎月連続でご紹介します。

問い合わせ先

大念佛寺 修復講座の係
TEL 06 (6791) 0026

